総 会 宣 言 (案)

私たちは、本日ここに、市内11支部が結集して、2025年部落解放同盟京都市協議会定期総会を開催し、人の世に熱と人間に光をもたらすため、さらに奮闘することを誓い合った。

自国第一主義を掲げるトランプ氏が、本年1月再び大統領として選出されることで、第二次世界大戦終了後の世界を、功罪ありつつも牽引してきたアメリカ合衆国は、自らの覇権をかなぐり捨てると同時に、民主主義や人権、多様性という価値観をも手放すかのようだ。一方、アジアでは中国が自らの力を誇示しつつ、ウクライナとの戦争を継続中のロシアとも結びつきを強め、覇権体制を築こうとしている。

そうした不安定な世界情勢を背景に、日本では、集団的自衛権を容認する安保関連三法が10年前に成立している。既成事実となったその矛盾を、むしろ逆手に利用する形で「憲法改正」の論陣が張られ、戦争のできる国づくりを進めようとする勢力が台頭しているのだ。法のコントロールが効かない領域で、軍部が暴走すること。それこそが私たちの国で現実起こった悪夢であったことを戦後80年の今、忘れてはならない。

力の論理が先行する時代だからこそ、憲法9条の掲げる平和主義の意義が増している。対話による外交を重視しながら、互いの歴史的、文化的違いを理解し、交流と信頼を醸成しなければならない。「人間への尊敬」を基軸とする水平社精神に立ち返り、差別や排外主義を許さないという規範を社会へ届けていこう。

そのためにも7月に予定されている参議院選挙は重要だ。人権侵害救済法や、冤罪被害者の救済となる再審法の成立のためにも、私たちの思いに共鳴してくれる議員の当選が欠かせない。京都選挙区では立憲民主党の山本わかこさん。比例代表では自治労推薦、立憲民主党の岸まきこさんの必勝のため、夏に向けて全力で取り組もう。

SNS上の過激な言動が選挙の行方を左右しかねない昨今の現状を踏まえるならば、私たちの取り組みにも困難が予想されるが、だからこそ人間同志の団結こそが重要だ。多くの仲間たちと連帯し、「よき日」の実現に向けて部落解放運動を前進させよう。

以上、宣言する。

2025年5月20日

2025年部落解放同盟京都市協議会定期総会